

ご挨拶

現在、全米各地において歴史的な寒波が襲来しており、冬の寒さが例年にも増して厳しさを増しています。年間を通して比較的温暖であるフロリダ州においても気温が0度前後まで低下し、ニューヨーク州では氷点下45度を記録するなど、24州において非常事態宣言が発令される事態となりました。同時期に日本国内においても、福井県をはじめとする地域で大雪警報が発令されるなど、日米双方で厳しい冬の寒波が到来しております。皆様におかれましては、くれぐれもご自愛のうえお過ごしください。

冬休みに入ると、現地の学生はそれぞれの地元へ帰省するため、フィンドレー大学のキャンパス内に残るのは主に留学生のみとなります。冬休みは例年、12月中旬から1月上旬までの約1か月間であり、年明けの瞬間は、日本人留学生や現地に残っていた学生とともに新年を祝いました。当日は各自が料理を持ち寄り、留学生活について語り合いながらカードゲームを楽しむなど、和やかな雰囲気の中で新年を迎えました。

海外で年越しを迎えるのは初めての経験でしたが、日本で感じられるような、新年特有の空気が澄み渡るような感覚はあまりなく、この独特の雰囲気は日本ならではのものなのだと改めて実感しました。

お湯花火と寒さによる休校

また、別の日には「お湯花火」と呼ばれる自然現象を目にする機会がありました。これは、屋外で沸騰したお湯を空中に投げると、熱湯が瞬時に微細な霧状となり、氷晶へと変化することで、花火のように見える現象です。細かい水滴が周囲の極めて冷たい空気によって急激に冷却され、空中で凍結することで発生します。通常は気温がマイナス20度から30度程度で見られると言われていますが、その日は気温が約マイナス15度でありながら、この現象を確認することができました。

2学期開始後は気温が継続的に低下し、日中の最高気温がマイナス10度前後にとどまる日もありました。さらに積雪も重なったことで、人生で初めて寒波を理由とした休校を経験しました。休校になっていることに気づかず登校しようとし、わずか10分ほど屋外を歩いただけで、露出していた皮膚に強い痛みを感じ、次第に感覚が失われていきました。同行していた友人の中には、空気に触れていた部分に水ぶくれができた者もあり、寒波は一定の度合いを超えると生命の危険に直結するものであると強く認識しました。

アメリカでは寒波に関する警戒レベルが三段階に分けられており、第二段階では幼稚園から高校までが休校となりますが、大学が休校となるケースは非常に稀です。第三段階に達すると、緊急時以外の車両運転が禁止され、違反した場合は逮捕される可能性もあります。日本の天候に関する警報・注意報と似た制度ではありますが、行動を法的に制限するほどの強制力を持つ点は、私にとって大きな驚きの一つでした。休校中は、みんなでマフィンを作って室内での活動を楽しみました。



友人のテニスの試合観戦

私の友人が大学のテニス部に所属していることから、その公式試合を観戦する機会がありました。アメリカの大学スポーツは、大学の規模や競技レベルに応じて Division1 から Division3 までの三つの区分に分けられており、私が在籍しているフィンドレー大学は Division2 に分類されています。

Division1 に属する大学は、非常に高い競技水準を誇り、激しい競争環境、巨額の予算、最先端のスポーツ施設を備えている点が特徴です。また、選手には多額の奨学金が支給される場合も多く、その分、厳しいトレーニングと高い競技成績、そして学業との両立が強く求められます。Division2 および Division3 へと下がるにつれて、競技規模や注目度は比較的落ち着いたものになりますが、その分、学生としての生活と競技活動を両立しやすい環境が整えられていると感じました。

当日対戦した相手校は Division3 に所属する大学であったことも影響してか、試合は終始フィンドレー大学が主導権を握り、最終的に勝利を収めました。私はこれまでテニスの試合を生で観戦した経験がなく、競技の進行や試合時間についても詳しく理解していませんでしたが、シングルスでの 1 試合が平均して約 2 時間にも及ぶことを知り、大きな驚きを覚えました。

試合中、選手たちは長時間にわたり集中力を切らすことなく、激しいラリーや瞬時の判断を繰り返しており、技術力だけでなく、体力や精神力の重要性を強く感じました。特に、ポイントごとに戦術を切り替えながら試合を組み立てていく姿は非常に印象的で、テニス単なる体力勝負ではなく、高度な戦略性を伴う競技であることを実感しました。

今回の観戦を通じて、アメリカの大学スポーツが学生生活の中で大きな役割を果たしていること、そして競技を通して培われる忍耐力や自己管理能力が、学業や将来の社会生活にも活かされているのだと感じました。

以上の文章につきまして、ご質問やご意見などございましたら下記メールアドレスまでご連絡ください。

sasakim@findlay.edu